

令和3年度工房ゆい事業報告及び令和4年度工房ゆい事業計画

はじめに

新型コロナウイルスの猛威は令和3年度も収まることを知らず、1月～2月にかけては法人内の利用児者、職員にも感染が確認されました。一昨年11月の法人内感染を教訓に感染拡大防止対策を徹底していたため、感染が拡大することはありませんでしたが、新型コロナウイルスの脅威を改めて認識し、with コロナと安心・安全の事業所運営の両立の困難さを実感いたしました。

令和4年度においても、事業所の最優先課題は新型コロナウイルス感染（拡大）防止対策となります。変異株の出現により日々変化する感染（拡大）防止対策ですが、情報を取りこぼすことなく適宜対応してまいります。

以下、令和3年度事業報告及び令和4年度事業計画を報告いたします。

令和3年度事業報告

●新型コロナウイルス感染防止対策

◎新型コロナウイルスへの感染が利用者・ご家族で確認されましたが、行動履歴や感染防止状況を精査し、安全を最優先にしながらもできる限りのサービス提供を継続しました。

●作業・活動面

◎生活介護

- ・祝日開所を実施し90%以上の利用がありました。公園への外出も実施しましたが、予想以上の混雑のため作業中心の日課となってしまう、祝日らしい活動は提供できませんでした。
- ・コロナ禍のため作業を中心に日課を組み、新しい作業も受注した結果、期末手当、年度末手当を支給することができました。
- ・作業内容については個々の障害特性にあわせた提供の方法を実施し、集中して取り組める時間が増えました。
- ・コロナ禍で外出する機会が減ったため季節ごとにミニイベントを開催しました。
- ・音楽療法士や理学療法士の来所については、感染防止対策を徹底したため予定通りのスケジュールを組むことができました。

◎就労継続支援B型

○食品加工班

- ・ 祝日開所を実施しました。
- ・ プロジェクト会議（工賃アップ向上委員会）を毎月開催しました。
- ・ 地域イベントの中止が相次ぎましたが、富士見市からの発注がありラスクの製造に力を入れました。
- ・ 季節限定商品（シュトーレン）の開発、販売を行いました。
- ・ サンドウィッチ、ハイブリッド食パンの開発に取り組みました。サンドウィッチは販売につなげることが出来ました。
- ・ 買い物は個別、少人数での対応を行いましたが、外食等のイベントはコロナ禍の為ほとんど行うことができませんでした。
- ・ シール貼りの間違いがまだ少しある為、継続して支援を行いました。
- ・ HACCPに基づき、衛生管理チェック表を作成・記録を行いました。

○喫茶ゆい、カフェゆい

- ・ パンの新商品を販売し、受注・促進につなげました。
- ・ 感染予防対策を継続しました。
- ・ コロナ禍で変更された作業内容については、個々のペースに合わせ支援を行いました。下膳については再開しました。
- ・ 利用者の体調や調子が悪いときは喫茶ゆい、カフェゆいと連携を取りフォローすることができました。

●各種委員会

◎研修委員会

- ・ 4月・5月・2月に各事業所の職員が集まり会議を催し法人内研修についての話し合い、検討をしました。
- ・ 新型コロナウイルス感染防止のため6月法人内研修は講師を招き午前・午後に分かれて実施しました。
- ・ 3月に予定していた法人内研修は新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、全体での研修は中止し動画を視聴してもらいました。一人での動画視聴は印象が薄く、記憶に残りにくいとの意見があった為、ソーシャルディスタンスを保ち間隔をあけながら少人数での動画視聴を可能にしました。（埼玉県公式動画「新型コロナウイルス感染症と発達障害」と選択制のDVD）

◎人権擁護委員会

- ・ 年に8回の人権擁護委員会会議を実施しました。
- ・ 4月から5月にかけて人権擁護のための虐待防止チェックリストを配布

- し、セルフチェックを実施しました。6月にチェックリスト結果を事業所ごとに確認を行っています。
- ・呼称について、職員から意見があり7月に職員、利用者ともに『さん』付けを徹底するように、各部署に連絡を行い実施しました。
 - ・2月に人権擁護虐待防止標語を職員と利用者から募集し、3月に発表を行いました。
 - ・『身体拘束等の適正化のための指針』の作成に取り組みました。

◎強度行動障害プロジェクトチーム

- ・年に3回、各部署の担当職員が集まり会議を開催しました。各利用児者の行動問題を桑野S Vからのアドバイスをもとに話し合い、支援の方向性を検討しました。
- ・今年度は6月19日、12月2日に懇談会を開催し、一般向けに自閉症支援のセミナーを桑野S V講演のもと行いました。

◎防災委員会

- ・8月・10月・3月に避難訓練を行いました。10月の避難訓練では消防立会いのもと、総合訓練を行いました。炊き出し訓練は今年も行えませんでした。
- ・水害時のフローチャートを作成しました。避難訓練時に確認して、訓練を行いました。コロナ禍の為乗車・送迎は行わず、車の前の点呼までとしました。

◎給食委員会

- ・毎月給食委員会を行いました。
- ・異物混入が数回にわたりありました。
- ・利用者から好みのメニューを聞き取り、リクエストメニューとして1年間でまんべんなく取り入れてもらいました。
- ・食事提供に個別対応が必要な利用者はいませんでした。

令和4年度事業計画

●新型コロナウイルス感染防止対策

- ◎新型コロナウイルス感染防止対策の徹底と施設運営継続の両立が確立されるように常に検討を重ねてまいります。

●作業・活動面

◎生活介護

- ・作業や機能訓練等、日々のルーチンを大切にし、日中活動を構築します。

- ・新型コロナウイルス感染防止対策を徹底したうえで、利用者の楽しみである調理実習や音楽療法は継続します。
- ・余暇としての外出が減少しているため、天候を見ながら屋外の公園等の外出を増やします。
- ・お花見や節句、ハロウィンやクリスマス等、季節ごとのイベント、ミニイベントを、感染防止対策を講じながら催行します。
- ・利用者の生活の質が事業所内だけではなくご家庭においても向上するよう外部講師と協力しながら支援を行います。

◎就労継続支援B型

○食品加工班

- ・開発した新商品を継続的に販売し、更なる売り上げアップを目指します。
- ・継続的な新商品の開発、販売に努めます。
- ・コンサルタント契約を継続し、工賃向上・売り上げ増につながるよう、相談・連携を図ります。
- ・工賃増をめざし、利用者のモチベーションアップにつながるような取り組みを検討します。個々のペースにあった支援を行えるようにします。
- ・多くの施設イベントが中止のため、天候を見ながら感染予防をし外出（散歩、買い物）を行います。
- ・衛生面の支援を、継続的・重点的に行います。

○喫茶ゆい、カフェゆい

- ・コロナ禍で変更した利用者の作業を、少しずつ以前の状態に戻せるように支援します。
- ・季節もの、限定販売などの取り組みを継続し、売れ筋商品は積極的に販売します。
- ・パン販売において販売状況等の意見を聞きながら、季節限定・新商品の注文を取って販売します。
- ・お客様に定着しつつあるテイクアウトは継続します。

●各種委員会

◎研修委員会

- ・年に2回法人内研修の開催を検討します。
- ・6月の法人内研修は新型コロナウイルスの動向を見つつ、身につけやすい対面での研修を検討します。

◎人権擁護委員会

- ・年に1回法人職員全員に人権擁護のための虐待防止チェックリストを配布、セルフチェックを行い、支援に対して見直す機会を設けます。
- ・年に1回虐待防止の意識を高めるため、人権擁護虐待防止標語を職員と利

用者から募集、選考、発表を行います。

- ・埼玉県虐待防止研修への参加を検討します。
- ・呼称については職員、利用者ともに『さん』付けで呼びます。

◎強度行動障害プロジェクトチーム

- ・利用者の行動問題を桑野S Vに相談し、年3回会議で話し合い支援の方向性を検討していき、支援を実施します。
- ・利用者の生活状況も含めて行動問題を探っていき、ご家族とも連携して支援に繋がるようにします。

◎防災委員会

- ・8月・10月・2月に避難訓練を行います。火災・地震・水害想定で行い、10月の訓練は総合訓練として消防立会いでの訓練を行います。
- ・フローチャートを活用した避難訓練を取り行えるようにします。
- ・自然災害発生時の業務継続ガイドライン作成に向け、委員会として意見をまとめます。

◎給食委員会

- ・支援員、栄養士、厨房と連携し、異物混入が防げるよう努力します。
- ・利用者から好みのメニューを聞き、リクエストメニューとして1年間でまんべんなく提供します。
- ・行事に合わせた食事の提供ができるよう、栄養士、厨房と連携を図ります。